

国情研コ第 207 号  
平成 27 年 10 月 28 日

国立大学図書館協会  
公立大学協会図書館協議会 各加盟館の長 殿  
私立大学図書館協会

大学図書館と国立情報学研究所との  
連携・協力推進会議  
機関リポジトリ推進委員会委員長  
北海道大学附属図書館事務部長  
富田 健 市

研究集会「機関リポジトリの未来：オープンアクセスからオープンサイエンスへ」  
の開催について（通知）

平素から機関リポジトリ推進委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本委員会では、オープンサイエンスに向けた政策的動向を踏まえ、今後の機関リポジトリに求められる役割と、その実践のための大学間連携のありかたを展望することを趣旨とし、デジタルリポジトリ連合との共催により、下記の通り、研究集会を開催することとしました。

つきましては、貴館職員の皆様へご周知いただくとともに、参加についてご配慮くださいますようお願い申し上げます。

記

研究集会「機関リポジトリの未来：オープンアクセスからオープンサイエンスへ」

1. 日時：平成 27 年 11 月 11 日（水）10:00～17:00
2. 会場：パシフィコ横浜（図書館総合展フォーラム第 5 会場）
3. プログラム（詳細は別添チラシを参照ください）：  
第 1 部「オープンアクセス政策と大学図書館」  
第 2 部「コミュニティの力」  
第 3 部「機関リポジトリの今、近未来のために」
4. 参加申込：本委員会ウェブサイト（[https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=27](https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?page_id=27)）からお申込みください。

以上



機関リポジトリ推進委員会主催／デジタルリポジトリ連合共催

# 研究集会 機関リポジトリの未来

## オープンアクセスからオープンサイエンスへ

日時：平成27年11月11日（水） 10:00-17:00

会場：パシフィコ横浜（図書館総合展フォーラム第5会場）

「オープンアクセス」から「オープンサイエンス」に移りつつある世界の潮流を反映し、日本国内でのオープンアクセス政策やリサーチ・データ・マネージメントを主題とした第1部、またJAIRO CloudやDRFなどの機関リポジトリコミュニティの今後の動向を採りあげる第2部をご用意しています。第3部では、機関リポジトリ担当者からの事例報告等を行います。

機関リポジトリご担当の皆様、将来的に機関リポジトリの構築をお考えの皆様、学術データ流通にご興味をおもちの皆様は、この機会にぜひご来場ください。

### ◆ 詳細・参加申込

[https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=27#\\_href\\_217](https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?page_id=27#_href_217)  
右記QRコードからも詳細をご覧ください。



## ◆当日プログラム（詳細）

10:00   11:30	<b>第1部「オープンアクセス政策と大学図書館」</b> 【講演 & パネルディスカッション】 我が国におけるオープンサイエンス推進について、内閣府、文部科学省、科学技術振興機構（JST）からご登壇いただき、大学図書館のオープンサイエンスへの取り組みについて話題提供の上、会場を交えたパネルディスカッションを行います。 ----- ●講演：真子 博（内閣府）、講師未定（文部科学省）、 岡田 啓一（科学技術振興機構）、尾城 孝一（東京大学） ●司会・進行：富田 健市（北海道大学）
	休憩
13:00   14:30	<b>第2部「コミュニティの力」</b> 【パネルディスカッション】 現在、日本の機関リポジトリに関する組織は、デジタルリポジトリ連合（DRF）、JAIRO Cloud利用機関コミュニティ、機関リポジトリ推進委員会があります。三者と係わりの深い国立情報学研究所を含めた四者で、新しいコミュニティの姿を探ります。 ----- ●パネルディスカッション：尾城 孝一（東京大学）、富田 健市（北海道大学）、 杉田 茂樹（千葉大学）、細川 聖二（国立情報学研究所）、 大園 隼彦（岡山大学）、西園 由依（鹿児島大学）、 林 豊（九州大学）、佐藤 恵（東北学院大学） ●司会・進行：山本 和雄（横浜国立大学）、高橋 菜奈子（国立情報学研究所）
14:45   15:15	<b>意見交換会「オープンサイエンスのために 大学図書館は何ができるのか？」</b> 【講演 & パネルディスカッション】 急速に進みつつある「オープンサイエンス」は、サイエンスのプロセス自体のオープン化を目指すものであり、根本的なスキームの見直しが必要です。先行している欧米では図書館が積極的に参画していますが、日本の大学図書館は、どのように動くべきなのでしょう？ 機関リポジトリをサイエンスのプラットフォームとなりうるのでしょうか？ 短い時間ですがディスカッションの場を設けたいと思います。 ----- ●司会・進行：三角 太郎（千葉大学）、大園 隼彦（岡山大学）、 西園 由依（鹿児島大学）
15:30   17:00	<b>第3部「機関リポジトリの今、近未来のために」</b> 【事例報告 & 全体ディスカッション】 各大学の取り組みを報告いただいた後、第1部・第2部意見交換会をふまえ、機関リポジトリは近未来のために今後どのようにしていけばよいか、会場全体で考えます。 （事例報告）1. 北海道大学における博士論文電子公開の取り組み ／佐々木 翼（北海道大学） 2. 京都大学オープンアクセス方針 ／ 鈴木 秀樹（京都大学） 3. 広島大学における学内刊行物の発信強化 ／川村 拓郎（広島大学） 4. 教員・学内他部署との連携・協働 ／佐藤 恵（東北学院大学） ----- ●司会・進行：松本 侑子（広島大学・DRF企画WG主査）、 三隅 健一（北海道大学）